

被渡度々被糺問就白杖狐仕同類共昨日八人被召捕醫師陰陽師有驗僧等也此内左大將二條柄候人諸大夫俊經朝臣醫道を學狐仕之由日來有風聞仍被召捕畢後經朝臣息女比丘尼總得菴にあ右往左往没落不便也行此外大進松井目藥宗福寺長老清水堂坊主等被召捕云々自餘其名不聞豐朝臣妻忽離別云々

十月十日室町殿御所勞雖有滅氣未煩敷御事云々狐仕人數權大夫俊經朝臣醫師高間陰陽師定棟朝臣各配所へ下向四國邊云々後聞藥師高間ハ配所下向路次ニて被殺云々

## 〔奥州波奈志〕狐つかひ

清安寺といふ寺の和尚は狐つかひにて有しとぞ橋本正左衛門ふと出會てより懇意と成てをりをり夜ばなしにゆきしにあるよ五六人より合てはなしゐたりしに和尚の曰御慰に芝ゐを御めにかくべしと云しがたちまち座敷芝居の體とかはり道具だての仕かけなりもの、ひやうし、色々の高名の役者どものいで、はたらくてい、正身のかぶきにいさ、かたがふことなし、客は思よらすおもしろきことかぎりなく居合し人々大に感じたりき、正左衛門は例のふしぎを好心から分て悦、夫より又習度と思心おこりて、しきりに行とふらひしを和尚其内心をさとりて、そなたにはいづなの法習度と思はる、やさあらば先試に三度ためし申べし、明ばんより三夜つゞけて來られよ、これをこらへつゞくるならば傳じゆせんとほつ言せしを、正左衛門とび立計悦て一禮のべ、いかなることにてもたへしのぎて、そのいづなの法ならば、やといさみいさみて、よく日暮る、をまちて行ければ、先一間にこめて、壹人置和尚出むかひて、この三度のせめの内、たへがたく思はれなば、いつにても聲をあげてゆるしをこはれよと云て入たり、ほどなくつらくとねづみのいくらともなく出來て、ひざに上り、袖に入、ゑりをわたりなどするは、いとうるさくめいわくなれど、誠のものにはあらじ、よしくはれてもきすはつくまじと、心をすゑてこらへしほどに、や、しばらくせめていづくともなく皆なくなりたれば、和尚出て、いや御